

花きコース学生の取り組み

和歌山県農林大学校 農学部
園芸学科 花きコース長 神谷 桂

令和2年度はコロナ禍の影響により例年通りの活動ができない1年となりました。

今回はその様な状況下での農林大の1年間の活動やコロナ感染防止対策について紹介します。

令和2年度は当初予定していた入学式は中止とし、臨時休校を5月連休明けまで延長しました。授業は5月7日からWEB授業として始めました。外部講師、担当職員共に授業の様子をビデオに録画し、それをYouTubeで公開するとともに視聴環境が整っていない学生には内容をDVDに落とし込み送付しました。併せて授業ごとに宿題を課すことで、学生の理解度判断に利用しました。

登校授業は実習から開始しました。花きコースの2年生は2人ですが、感染を防ぐためにマスクをして、栽培管理、採花、出荷調整等を行いました。その後、暑くなっていくなかで、露地ほ場等の栽培管理で密にならないようであれば、熱中症を防ぐためにマスクを外しての実習を可能としました。

対面授業は6月1日から開始しました。コロナ対策として教卓の前をビニールで仕切るとともに、また、学生

同士の机の間隔を広く確保し、授業を進めました。

県農業協同組合連合会主催の「園芸技術員資格認定試験」は7月に実施されました。これは1年間で農業の知識がどれくらい身についたかを試す機会です。花きコース2年生の2人は筆記試験及び面接試験とも無事にクリアし合格できました。

毎年実施している市場流通研修は残念ながら中止としました。通常、花きコースの学生は「柵なにわ花いちば」で1週間、市場の業務を体験しながら市場の役割や機能を学習します。その代替授業として次の2つの研修を行いました。

(1) 和歌山市中央卸売市場等の 見学研修

9月29日に和歌山市産業交流局中央卸売市場業務班の協力で「和歌山市中央卸売市場」で研修を行いました。ビデオ視聴しながら分かりやすく説明を受け、市場の成り立ちや機能、将来の方向性等を学習しました。また、和歌山青果柵取締役部長、大正丸代表取締役及び担当者（本校卒業生）から

卸売、仲卸会社の業務内容の説明を頂きました。その後、セリ場等の場内を見学しました。

午後は「道の駅四季の郷公園」に移動して、リニューアル担当班長から「FOOD HUNTER PARK」として生まれ変わった経緯や公園内の地元産にこだわった農産物直売所、レストラン、体験農園等について説明を受けました。



和歌山市中央卸売市場見学研修

(2) 流通に関する特別講演会

10月1日に「産直市場よってって」を運営する(株)プラス代表取締役野田社長にお越しいただいて講演会を開催しました。業務内容や安心、安全、安価でお客様を満足させるための仕組み等をパワーポイントで詳しく説明を受けました。



「産直市場よってって」講演会

(3) 東海近畿ブロック発表会

東海近畿ブロック農業大学校学生研究および意見発表会は1月14日にリモートで開催されました。各校の代表者が自校で発表し、それを ZOOM で配信し、それぞれが視聴する形式で行われました。



ZOOM による
東海近畿プロジェクト発表

(4) 卒業論文発表会

学生生活の集大成として2月に開催する卒論発表会はコロナ対策を講じて開催しました。花きコースの2人は「プレルーティングの有無による無花粉ユリ‘バンドーム’の切り花品質調査」、「後処理剤利用で日持ち性アップ～ひと工夫できれいな花が長持ち～」をそれぞれ発表しました。後者の発表は優秀賞を受賞しました。

卒業式は卒業生1名に対して保護者1名と職員の参列で挙行了しました。1年生は別部屋で TEAMS を使って式の様子をテレビで視聴しました。

以上のように令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策として、学校

の休業や度重なるカリキュラムの変更を行いました。職員は元より関係各位のご協力のもと、学校運営ができました。

令和3年度もコロナ禍での学校運営となりますが、我々職員は常に「学生ファースト」を念頭に、学生のために何をすべきか考え行動していきたいと思っておりますので、引き続きご支援を頂ければ幸甚です。



卒業論文発表会